

Mus. no. 100916) 赤羽 (S. OKUYAMA Mus. no. 100915)、上野公園 (S. OKUYAMA Mus. no. 100917)、世田ヶ谷 (M. SUDA Mus. no. 100920)、澁谷 (K. HISAUCHI Mus. no. 100918)、横濱 (K. HISAUCHI Mus. no. 100919)。

現在マデ自分ノ見タ標本ヨリ云ヘバ、ゐのこづちハ南ハ九州ヨリ本州中部日光邊マデ、ひなたゐのこづちハ本州ノ北部ヨリ四國ニマデ及ブ様デアル。

アノ頃ノ思出 (早田先生ト高尾山ト私)

本 田 正 次

M. HONDA: The memoirs of the late Prof. Hayata

私ガ植物學教室ヲ初メテ訪レタノハ大正七年ノ九月ナカバ、一日モ早ク憧レノ大學ノ講義ヲ聽キタイモノト、先ヅ恐ル恐ル正面ノ玄關ヲ這入ツテ直グ右側ニアル揭示板ノ文字ヲ讀ンデ居ルト、背後ノ小使部屋カラー人ノ小使ノ爺サン(今思フト本多ト云フ小使ニ違ヒナイ)ガ出テ來テ、「一年生ノ方ナラバ早田先生ト云フ御方ガイロイロ面倒ヲ見テ下サルコトニナツテ居マスカラ其ノ先生ニヨク御聞キニナツタライデセウ」ト親切ニ注意シテ呉レ、ワザワザ揭示板ノ隣リニアル早田先生ノ室ニ自分デ這入ツテ同先生ヲ室外マデ呼ンデ來テ呉レタモノダ。ソコデ私ハ早田先生ト玄關デ初對面ト云フ譯、同先生ハ當時講師デアツタ。多分「カーキ」色ノ軍服見タ様ナモノヲ着テ居ラレタカト記憶シテ居ル。初對面ノ私、勿論大學ノ先生ノ顔ヲ見タノモ初メデアル。同先生ハイキナリ私ニ「明日ハ野外デ實習ヲシマセウ。場所ハ高尾山、午前七時マデニ飯田町驛ヘ集ツテ下サイ。胴亂ト辨當ヲ忘レナイ様ニ」ト云ハレタ。私ハソノ時實ニ驚イタ、流石ハ植物學ヲ専門ニヤル所ダ、最初ノ日カラ植物採集トハコリヤー有リ難イト思ツタ。翌日示サレタ時間マデニ飯田町驛ヘ行ツテ、ソコデ同時ニ入學シタ級ノ人々トモ初メテ會ツタ譯ダ。淺川ノ驛ニ下車シテ先生ハ直グ驛前ノ右側ニアル茶店ニ這入ラレタノデ我々モ後ニ續イテ這入ツタ。先生ト餘程懇意デアラシイ、茶店ノ主人ガ出テ來テ、イロイロ話シカケル。先生ハ其處デ靴ヲ草鞋ニ履キ換ヘラレタノデ、高尾山ガドノ位險峻ナ山デアルカヲ知ラナイ我々モ亦先生ノ眞似ヲシテ草鞋ニ履キカヘタモノダ。ヤガテ先生ハカネテ預ケテアルト見エテ主人ニ命ジテ枝切り用ノ長イ竿ヲ奥カラ持チ出サセ、ソノ先ニ鎌ヲ

取りツケラレタ。コレデ用意ガスツカリ出来上ツタノデ、「ソレデハ諸君出掛ケマセウデス」ト云フ先生ノオ聲ニツヅイテ皆立チ上ツタ。ソノ時茶店ノ主人ガ「皆サン御不用ノモノハ置イテイラツシヤイ」ト云ツタノデ、私ガ「オイ諸君胴亂ハ置イテツチヤーイカンヨ」トドナツタ。コレガ恐ラク私ガ大學ニ入ツテ彌次ヲ飛バンタ第一聲デアツトラウ。兩側ニ綺麗ナ水ノ流レタ浅川ノ町ヲ山ヲ目指シテ行ク程ニ、鐵道ノガードノアル下ニ黒イ橋ガ架ケテアル川ノ邊ニ出ルガ、ソノ川縁ニ一本ノ大キナあらかしガアツテヨク繁ツテ居タ。（今デモ多分同所ニアルト思フ）。早田先生ハココデ足ヲ止メラレ、「諸君コレハあらかしト云フモノデス。family ハ *Cupuliferae*, 或ハ此ノ頃デハ *Fagaceae* トモ云フ様

デス。サア諸君オ取りナサイ」ト云ハレタノデ、枝切りノ竿ヲ持ツテ居タ學生ノ一人ガイチ早く、高イ所ニアル枝ヲバサバサト切り落シタ。ソレヲ取り卷イテ我々五六人ノ學生（今朝顔ヲ合シタ許リダ、オ互ニ未ダ名モ知ラス）ガ集リ、ポキポキト枝ノ一部ヲ折リ取ツテ紙片ニ「あらかし」ト書イテコレニ結ビツケ、胴亂ニ入レタノデアツタガ、竿ヲ持ツタ一人ガ後カラ後カラト面白半分ニ枝ヲ落スノデ、先生ハソレヲ見テ「モー君澤山ダ、ヨシ給へ」ト注意サレル。私ハソノ尻馬ニ乗ツテ、「ソウアラカシチヤ困ルヨ」ト云ツタノデ皆ガ思ハズ吹き出シタ。コレ恐ラク私ガ大學ニ入ツテ酒



御病氣前ノ早田先生

落ヲ云ツタ最初デアツトラウ。カウシテ一日ヲ面白ク愉快ニ採集シテ、歸リノ汽車デハ僅カ六七人ノ仲間ダ、採集シタ百近クノ植物ノ名ハナカナカ覺エナイ

ガ、オ互ノ名ハスグニ覺エテ和氣霽々裡ニ東京ニ歸ツタ。ソレカラ後、高尾山ヘハ何度モ何度モ採集ニ行ツタ。此頃ノ様ニ東京驛カラ三十分間隔ニ速イ綺麗ナ電車ガ出ル時代ト違ツテ、ソノ頃ハ飯田町ノ驛カラ日ニ數回シカ出ヌ中央線ノ列車ノツイデニ淺川デ下サレテ居タ様ナモノダ。ソレデ日曜祭日等、朝ノ七時頃出ル汽車ニ乗ル爲ニ飯田町ノ驛ヘ行クト、蜿蜒長蛇ノ陣ヲ作ツテ出札口ニ迫ツテ居ル。ソシテ遂ニ發車時刻マデニ出札ガ終ラズ、汽車ハ出テシマフ。其ノ次ノ汽車デハ採集シテ日歸リガ出來ナイト云フ有様デ、ナゼモ少シ早カラ出札ヲ始メナイカト鐵道院總裁（其ノ頃ハ未ダ所謂院線時代デアツタ）ヲ恨ミナガラ下宿ニ歸ツタ事ナドモアツタ。ソノ頃カラ既ニ十五年以上モ經過シテ居ル。東京カラノ交通ハ便利ニナル、院線ハ省線ト變ル、山ニハケーブルカーガ出來ル、道ハ改修サレル、山カラハ新シイ植物ヤ珍ラシイ植物ガ續々ト發見サレル、大磯ヤ三原山ノ餘波ヲ喰ツテ、心中ヤ自殺ノ不淨體ガアチコチデコロガリ出ス、御本堂ガ火事デ燒ケル、ソレハ實ニ様々ノ變化ガ起ツタ。其ノ間私ガ山ヘ登ツタ回數ヲザツト計算シテモ四十回位ニハナルダラウ。トコロガドウデセウ、本年二月十四日附ヲ以テ皇室林野局林業試驗場カラ高尾山ノ植物及昆蟲類採集ヲ禁止スル旨ノ達示ガ發セラレタ。「近年學術上珍貴ノ植物及昆蟲類次第ニ其數ヲ減少シ遂ニハ絶滅ヲ來スノ虞レモ有之候條之レガ保護ノ爲メ當分ノ間右御料地ハ採集者ノ入林ヲ禁止致候云々」ト云フノデアルカラ誠ニ尤モナ次第デアルガ、我々ボタニストノ立場カラ考フレバ、實ニ殘念デアル。殊ニ私ト高尾山トヲ結び付ケテ考フルトキ、ソノ第一印象トシテ殘ルモノハ前述ノ通り早田先生デアル。ソノ早田先生ハ宿痼ノ爲本年一月十三日溘焉トシテ逝カレタ。今又高尾山ノ採集禁止ニ出會フ。早田先生逝キ、高尾山ノ採集ハ禁止サレル、アレヲ思ヒコレヲ思ヘバ、轉今昔ノ感ニ堪ヘヌ。